指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
（評価対象年度：令和4年度）

＜施設概要＞

施設	武者小路実篤記念館
施設の設置目的	武者小路実篤の業績を顕彰し，広く市民の教養及び文化の向上に寄与する
指定期間	平成31年（2019年）4月1日～令和11年（2029年）3月31日
指定管理者	一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
所管部署	教育部　郷土博物館

＜施設の過去3箇年の主な管理実績＞

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
記念館利用者数	6142人	5757人	6451人
事業参加者数	9155人	6714人	通常事業参加者数 21584人 ライブ配信視聴人数 49人 収録動画視聴回数累計 333回 デジタルスタンプラリー参加者 1112人
指定管理料（市決算額）	2924万9682円	2779万5486円	2648万655円
利用料金収入	82万5040円	72万1400円	140万2550円

＜指定管理者における全体総括＞

調布市武者小路実篤記念館(以下，「実篤記念館」という。)は，外壁及び屋上防水等改修工事のため，令和4年11月29日から令和5年3月3日まで臨時休館しました。また，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，事業の規模縮小，実施方法の変更などにより，令和2・3年度に引き続き事業全般にわたり大きな影響がありました。そのような中ではありましたが，市民が広く誇り得る文化の拠点として，実績と信頼を活かしながら，より良質で魅力ある事業を積極的に展開しました。

展示・普及事業では，春・秋2回の特別展と収蔵品による4回の企画展及びたづくり展示室で移動展を開催し，移動展に合わせて『武者小路実篤名言集　生きるなり』を刊行，販売したところ好評を得て増刷となりました。講演会等は，対面で開催するとともに，新たにライブ配信や収録動画公開などに取り組みました。学校との連携事業では，若葉小学校との連携により美術鑑賞教育，実篤公園を筆で写生して言葉を添えた児童の色紙作品の展示及びホームページでの公開，学校図書館等でパネル展示を実施しました。また，ICTを活用した学校教育に対応して，ホームページ「学習サポート」のコンテンツの充実に努め，新たに学童クラブとの連携に取り組みました。施設管理運営事業では，施設内外の消毒など徹底した感染防止対策を年間を通して実施したほか，資料保存環境を把握するため隔年で行っている環境調査を行うとともに，空調設備の稼働調整をするなど，良好な保存環境の確保と作品・資料の適切な保全に努めました。施設・設備の経年劣化に対しては，適宜必要な修繕を施し，利用者の安全と快適性の確保に努めました。財団として，文化庁の文化芸術活動の再興支援事業補助金等の交付を受けたほか，自主事業では物販事業の収入を活用するなど，自主財源の確保と活用に努めました。また，実篤記念館と調布市実篤公園の日常管理を一体的に行うことにより，実篤公園を有効に活用する事業を展開するなど，相乗的な魅力の向上を図りました。さらに，調布市の監理団体として地域への貢献を図る観点から，令和5年2月に調布市と「災害時における調布市の対応への協力に関する協定書」を締結しました。

＜施設の管理運営等に関する評価（各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照）＞

	確認項目	確認欄
業務の実施体制	業務マニュアルの整備（職員への周知含む）	（ 有（更新）・ 有 ・ 無 ）
	緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備（職員への周知含む）	（ 有（更新） ・ 有 ・ 無 ）
	職員の育成（研修・緊急時対応等の訓練）の実施	（ 実施 ・ 未実施 ）
	＜評価におけるその他の視点＞ ・個人情報の保護及び情報漏洩防止のための措置　・適切な人員配置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守　・適時適切な市との情報共有 ・協定書等を遵守した業務の再委託　など	
	施設所管部署の総括 （上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価（b～d）
	柔軟な組織運営を図るため，事業部門と総務部門の職員の相互異動を行い，協力体制を構築する取り組みを継続し，職員一人ひとりのスキルアップを図るとともに，財団内の実務を通してベテラン職員から若手職員へ知識や技術の継承を進めたほか，専門分野の研修に参加し，業務の質的向上が図れるよう職員の育成に努めた。また，人材育成の観点から，人事評価制度を導入し組織の活性化に繋げたほか，労務管理についても規則等の整備を行った。	b

評価の目安（b～d）
b：マニュアル整備や研修等が適切に実施されており，その他，協定内容や関係法令等が遵守されている。
c：マニュアル整備や研修等の実施，協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。
d：業務の実施体制について，抜本的に改善が必要なものがある。

	確認項目	確認欄
施設の維持・管理	施設・設備についての保守点検の実施	（ 実施 ・ 未実施 ）
	施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	（ 不具合等有 （ 9件（うち対応9件） ・ 無 ）
	作品・資料の展示・保存環境の維持	（ 実施 ・ 未実施 ）
	備品の適切な管理（台帳との照合）	（ 実施 ・ 未実施 ）
	＜評価におけるその他の視点＞ ・利用者の安全確保対策　・適切な衛生管理（清掃対応，感染症対策など） ・指定管理者として必要な保険への加入　など	
	施設所管部署の総括 （上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価（a～d）
	昭和60年の開館から37年が経過し，経年劣化による施設や設備の各種不具合発生の件数が増加している中で，適宜，必要な修繕を実施し，利用者の安全かつ快適な利用の確保を的確に行っている。令和4年度は外壁工事及び屋上防水改修工事の円滑な実施に協力した。 令和3年度に引き続き，自主事業費により施設管理アドバイザーへ委託し，施設・設備の不具合の状況確認，対処方法や修繕等の助言を得て，財団が実施する施設管理について問題解決に努めた。 衛生管理面では，定期的な清掃や保守点検業務に加えて，来館者が安全・安心に利用できるよう年間を通して施設内外の消毒をするなど徹底した新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した。 また，隔年で実施している館内環境調査を行い，作品・資料の良好な状態の確保に努めたほか，資料管理としては，引き続き所蔵作品の貸出等への対応や貴重な作品保全のための動産保険への加入手続を行っている。	b

評価の目安（a～d）
a：施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え，先進的な対策の導入など，優れた安全対策や維持保全などが行われている。
b：施設・設備の点検や修繕や備品管理，安全対策などをはじめ，施設の維持・管理が適切に実施されている。
c：施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。
d：施設の維持・管理について，抜本的に改善が必要なものがある。

サービスの提供	確認項目	確認欄
	計画した事業（サービス）の実施	（ 計画どおり ・ 一部未実施 ・ 多くが未実施 ）
	利用者数の状況（前年度比較）	（ 前年比5%超増 ・ 同水準（±5%） ・ 前年比5%超減 ）
	新たなサービス（事業）の実施	（ 有 （ 5件） ・ 無 ）期間限定の YouTube 配信（1件），オンラインによるライブ配信（2件），学童クラブへの出張授業（2箇所）
	サービスの見直し（利用方法・事業回数・時間帯等）の実施	（ 有 （10件） ・ 無 ） たづくり移動展会場でカプセルトイの配布，教材用動画（計9本）の配信
	所蔵品の管理，整理・保存と活用	（ 実施 ・ 未実施 ）
	職員の接遇態度（言葉遣い，態度，服装，問合せへの対応等）	（ 優れている ・ 普通 ・ 要改善 ）

＜評価におけるその他の視点＞
・利用者にとって分かりやすいホームページなどを活用した施設利用案内や事業等に関する情報提供
・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施
・協定書等に基づく施設の開館日・開館時間の遵守
・利用申請等に対する迅速な対応
・利用者からの苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告
・実篤顕彰，その他調査・研究の実施
・施設の利便性向上・利用促進に関する取組
・利用者満足度アンケート調査等の結果　　など

施設所管部署の総括 （上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価（s～d）
令和4年度は外壁及び屋上防水等改修工事により約3か月の臨時休館となったが，利用者数は，6451人で前年度比12．1%の増加となり，来館者の回復傾向がみられた。また，講演会・講座等については，引き続き定員を減らして新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して実施した。 令和4年度は，たづくり展示室での移動展を実施したほか，令和3年度に有観客での開催を中止した朗読会を動画に収録し，期間限定でYouTubeで配信した。さらに，秋の特別展関連講座は，オンラインによるライブ配信を行うなど，コロナ禍においても，学習の機会を損わずに提供できるよう新たな取り組みを行ったことは評価できる。 学校連携では，ホームページに設けた「学習サポート」ページのコンテンツの充実を図り，教材に使える動画を公開したほか，新たに学童クラブとの連携に取り組み，出張授業を実施した。 また，令和4年度は入場時に利用者全員にアンケートを配布し，より多くの意見や要望を回収することができるよう努めた。これらの多くの取組により利用者アンケートでの満足度は高い数値（平均72．3%）となっている。	a

評価の目安（s～d）
s：サービスの提供（施設利用，事業実施など）について，特に優れた実績がある。
a：サービスの提供（施設利用，事業実施など）が適切に実施され，かつ，前年度実績を上回る実績が複数あるなど，優れた実績がある。
b：サービスの提供について協定書等の内容に基づき，概ね適切に実施できている。
c：サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され，一部改善を要する点がある。
d：サービスの提供について，抜本的に改善が必要なものがある。

財務の状況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	（計画比＋5%超・ 同水準（±5%） ・ 計画比－5%超 ）
		支出総額	（ 計画比＋5%超 ・ 同水準（±5%） ・ 計画比－5%超 ）
	収入（指定管理料を除く）の状況（前年度比較）		（ 前年比5%超増 ・ 同水準（±5%） ・ 前年比5%超減 ）
	収入確保や経費縮減の取組		（有・ 無 ）主な取組内容：国の補助金の活用，物販事業収入
	＜評価におけるその他の視点＞ ・指定管理料の適切な管理（帳簿等の整備） ・利用料金等に関する適切な収納事務の実施 など		
	施設所管部署の総括 （上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）		評価（s～d）
	令和4年度はコロナ禍に加え，外壁及び屋上防水等改修工事により，約3か月間の臨時休館を行ったが，利用者の回復傾向とともに冊子『武者小路実篤名言集 生きるなり』の販売が好調だったこともあり，頒布料収入が大幅に増加し，利用料金収入は計画比で40%を超える高い水準となった。収入（指定管理料・補助金を除く）においては，前年度比5．6ポイントの減ではあったものの，国の文化芸術活動の再興支援事業補助金等の交付を受けたほか，物販事業収入の確保に努め，支出総額については，計画比で3．3%の減と経費縮減となったことは評価できる。 総資産当期経常増減率は前年比で0．5ポイント上昇しており，効率的に活用されていると判断できる。		a

評価の目安（s～d）

s：収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え，収入増加や経費縮減に関して，特に優れた対応・実績が見られる。
a：収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え，収入増加や経費縮減に関して，優れた対応・実績が見られる。
b：収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。
c：収支計画等に基づく適切な運営や，その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。
d：収支計画等に基づく適切な運営や，その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

その他	確認項目	確認欄
	地域等との連携による取組の実施	（ 実施・ 未実施 ） 主な実施内容：桐朋学園大学「観梅のつどい」コンサートの開催， 小・中学校図書館のパネル展示， 若葉小学校５年生の色紙作品の展示とホームページ公開
	地域貢献活動の実施	（ 実施・ 未実施 ） 主な実施内容：都立神代高校定時制への教材提供・解説， 学童クラブや老人クラブへの出講， 調布市との防災協定の締結
	＜その他評価の視点＞ ・省エネルギー，省資源等の取組による環境への配慮 ・広域連携，博学連携の取組 ・市民雇用の取組 ・ボランティア等，市民との協力体制への取組 ・地域経済の発展に資する取組 など	
	施設所管部署の総括 （上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価（s～d）
	自治体間や近隣の美術館と連携して行ってきた回遊型事業は，新型コロナウイルス感染症の拡大により，デジタル技術を活用し接触を伴わない方法へ切り替えが進んだ。令和4年度は調布スマートシティ協議会による「調布スマートシティデジタルスタンプラリー」やリアルとデジタルを併用した武蔵野コッツウォルズによる「森の地図スタンプラリー」に参加することにより実篤記念館の事業活動の周知に努め，認知度を高めた。 学校教育との連携事業では，都立神代高校定時制の地域探検の事前学習に教材を提供し，見学では学芸員が解説を行うなどのほか，新たに学童クラブ2か所との連携事業にも取り組み，さらに老人クラブへの出張授業を実施した。また，令和4年度には市と「災害時における調布市の対応への協力に関する対応協定書」を取り交わし，市との連携強化及び地域貢献を図り，万一の場合の対応に努めた。	a

評価の目安（s～d）

s：5つの視点に関する取組以外に，地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて，特に優れた対応が見られる。
a：5つの視点に関する取組以外に，地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて，優れた対応が見られる。
b：地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。
c：地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。

d:地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について，抜本的に改善が必要なものがある。

＜施設所管部署における全体総括＞

令和4年度は，改修工事のため約3か月間の臨時休館及び新型コロナウイルス感染拡大防止のための事業の規模縮小や実施方法等の変更などにより事業全般にわたって大きな影響があったが，年2回の特別展と4回の企画展のほか臨時休館中にはたづくりでの移動展を実施した。普及事業では，期間限定の YouTube 配信やオンラインによるライブ配信などを実施し，より広く実篤に関心をもってもらうための新たな取組を行っている。
利用者数では前年度比694人の増，利用料は前年度比3．4%との増と，新型コロナウイルス感染症による利用者減少から回復傾向に転じつつある。利用料金収入全体では新たに刊行した冊子の頒布料収入が大幅に伸び，さらに国からの補助金等の交付を受けるなど自主財源の確保に積極的な財団の取組は，高く評価できるものである。
今後もコロナ対策緩和後の事業内容に創意工夫を図るとともに引き続き博学連携などを推進し，安定的な財団運営や魅力的な事業の展開を期待する。

総合評価	A

総合評価基準
以下，施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。

＜係数＞
s→10
a→8
b→6
c→4
d→2

各視点に基づく評価の係数合計を算出

＜総合評価基準＞
S（特に優れている）
→42 ～ 44（かつ各視点でｃ評価が無い）
A（優れている）
→36 ～ 41(かつ各視点でｄ評価が無い）
B（良好）
→26 ～ 35
C（要改善）
→16 ～ 27
D（要抜本的見直し）
→10 ～ 15

＜指定期間を生かした管理運営等の取組（5年間を超える指定管理期間の施設に限る）＞

※指定期間の中間年の前年を終えた時点における状況

	これまでの取組実績，成果及び今後に向けた課題認識 （指定管理者記載内容）	
取組内容	【取組実績・成果】 〈施設管理について〉 開館から 37 年が経過し，施設・設備の老朽化により，市による臨時休館を伴う改修工事のほか，財団予算でも規模の大きな改修・修繕の対応が増加している。 財団は自主事業費で施設管理アドバイザーを導入し，博物館施設として求められる要件を理解したうえで，施設等の課題を把握し，改修等にあたっては専門的な点から指導してもらうことで，施設管理に努めた。 〈事業内容について〉 展示事業は約5週に一度内容を替え，それぞれ武者小路実篤を軸としつつ，年間で文学・美術・新しき村等の異なる展示テーマをバランスよく設定することによって，多岐にわたる業績を多角的に紹介している。 普及事業では講演会等の配信を新たに始めたほか，ツイッターなどを活用し，広報の充実にも努めた。 博学連携にも積極的に取り組み，教育現場との意見交換を行い，若手教員研修の場として実篤記念館が活用されるなどの効果があった。また，ホームページ上で「学習サポート」ページを新設し，ICT 教育に活用できるように 教材を作成，配信するほか，学校等への出張授業など，夏休み自由研究サポート以外の博学連携事業を拡充することができた。 〈人材育成について〉 職員の世代交代を図るべく，日常業務をはじめ実務を通して，ベテラン職員から若手職員へ専門的な知識や技術の継承を進めた。また，事業係と総務係（学芸員資格あり）の職員を相互に異動することで，柔軟な組織運営を図り，協力体制を構築し，財団全体の事業運営の活性化を図った。 令和4年度からは，人材育成の観点から正職員の人事評価を実施，財団運営が安定的・継続的に進められるように取り組んだ。 〈収入確保，経費縮減について〉 ミュージアムグッズ販売を中心とした自主事業収入を確保。これらの収益は，朗読会やコンサート等の開催，施設管理アドバイザーの費用にあて，事業の充実を図っている。 コロナ禍での収入減に対し，文化芸術活動を支援する文化庁の補助金を，令和2年度，3年度，4年度に交付を受けたのをはじめ各種補助金により，事業の充実，新型コロナウィルス感染症拡大防止対策の費用にあて，収入の確保・経費の縮減を図った。	【今後に向けた課題とその対応】 〈施設管理について〉 施設・設備の老朽化については，財団独自の施設管理アドバイザーを活用し，施設の課題を把握し，市との連携を図り，安心・快適に施設を利用できるように取り組んでいく。さらに，収蔵作品・資料の保存，公開を適切に図りながら，後世に貴重な資料を残し，活用していくために，現在，課題となっている収蔵・展示設備の整備について検討を進める。 また，立地する地域特有の問題（浸水想定区域，土砂災害警戒区域等）に取り組み，防災・減災に努める。更に，令和5年2月に調布市と締結した「災害時における調布市の対応への協力に関する協定書」に基づき，市及び地域との連携強化を図っていく。 〈事業内容について〉 事業全般にわたり，社会情勢やトレンドを踏まえた魅力ある事業を展開し，また，テーマもより多角的で幅広い視野に基づくものにして，新たな来館者の獲得とリピーターの確保を図っていく。また，SNS 等の活用，適時な広報リリースなどを通して，積極的な広報活動を行い，利用者の増加に取り組んでいく。 博学連携プログラムを推進し，教材の提供，所蔵するデータやコンテンツの ICT 教育への利用・活用，また，リアルな鑑賞体験の場の提供等により，子どもたちの実篤記念館の利用機会が拡大するように図っていく。 情報提供システムのリニューアルを通して，システムの整備，所蔵品データの公開等を図り，分かりやすく情報を提供するために，デジタル技術を活用した取組を進める。 〈人材育成について〉 世代交代にあたり，優秀な人材の確保，ベテラン職員の知識・技術の共有と継承を行えるように，人材の育成を図っていく。 今後求められる IT スキルの向上を図り，法令等の改正に伴う情報を適切に得ることで，財団運営を安定的・継続的に進めるように努める。 〈収入確保，経費縮減について〉 ミュージアムグッズの開発・販売による自主財源確保を強化するとともに，ネットショップの充実，ふるさと納税でのミュージアムグッズ等の提供により，販路の拡大に取り組む。 また，『武者小路実篤名言集　生きるなり』刊行による反響で，頒布料収入が増えた。今後も実篤記念館が持つノウハウと所蔵品を活用した魅力ある出版等により，頒布料収入の増額を図っていく。 事業において，効果的かつ財団規模に則した事業助成金については獲得するように努める。

	指定管理者におけるこれまでの取組実績，成果を踏まえた市の総括及び今後の方向性（施設所管部署記載内容）	
	【取組実績・成果】 〈施設管理について〉 開館から37年が経過し施設の老朽化が進む中，職員による日々の巡回により要修繕箇所の把握に努め適宜対応しているほか，自主事業費で施設管理アドバイザー委託を行い，施設の不具合の解決に努めている。	【今後に向けた課題とその対応】 ＜施設管理について＞ ・実篤記念館における事業の基本機能を支える「収蔵庫」をはじめ施設の老朽化の状況を注視し，施設管理アドバイザーの指摘を踏まえた計画的な対応を検討していく必要がある。
	〈事業内容について〉 特別展，企画展等の展示事業のほか，オンラインによるライブ配信や学校連携としてホームページに「学習サポート」ページのコンテンツを充実させるなど，新たな取組を進めている。	＜事業内容について＞ ・「実篤記念館のブランド化」は，実篤のファンを増やすことや利用料金収入を増やすこと，さらに，将来の担い手を育成することにもつながる大切な事業目標である。 ・引き続き，現代を生きる私たちの心に「響く」ものは何かということを戦略的な視点から研究し，「実篤記念館ブランド」を磨き上げていく必要がある。
	〈人材育成について〉 事業係と総務係（学芸員の資格を有するもの）を相互に異動させることで柔軟な組織運営を図っている。また，正職員の人事評価を実施し，人材育成に努めている。	〈人材育成について〉 ・「日本で唯一の実篤研究の情報収集発信基地」を標榜し続けるためには情報を継承する仕組みと，発展的に活用することのできる人材の確保と育成が必要である。 ・労働の基盤となる勤務条件などについて，法令等に適切に対応する環境が整っているか定期的に確認する必要がある。また，労務管理をミスなく，効率的に実施できる仕組みを検討する必要がある。
	〈収入確保，経費縮減について〉 自主事業として，物販事業の活用のほか，コロナ禍では，文化庁の補助金交付を受けるなど自主財源の確保に努め，一定の成果をあげている。	＜収入確保・経費縮減について＞ ・1回目（初めて）の来館を誘導できる戦略的な取組を検討，実践していく必要がある。また，何度でも来たくなる，いつ来ても新しい発見があるという，記念館の展示コンセプトを基本にした事業展開を実施することにより，2回目以降の来館につなげ利用料収入の確保になるとよい。 ・特別会計の「物品販売事業」や「自主事業」の充実等により，より一層，実篤，実篤記念館，財団の魅力を発揮，発信できるとよい。